第二十八号　平成十八年二月一日（水）発行

西部を詠んでみませんか

昨年の十二月から、「六ッ美西部学区のふるさとを詠む」俳句・短歌の作品応募が始まりました。西部の町の良さ、自然の移り変わりなどを、みなさんの思いで表し、残していこうという催しであり、昨年度初めて行われました。今年度で二回目となります。

西部小学校でも、高学年では、国語の授業で俳句・短歌を学びます。五年生の教科書には次のような作品が紹介されています。

しずかさや
岩にしみいる蝉の声
松尾芭蕉

金色の
ちひさき鳥のかたちして
銀杏ちるなり夕日の岡に
与謝野晶子

どうでしょうか。見覚えのある作品もあったのではないでしょうか。ちなみに、短歌は奈良時代の万葉集、俳句は江戸時代の松尾芭蕉から、始まっているとされています。

こうした学習の後、子どもたちは自分の句や歌を作り始めました。まず、題材探しです。冷たい北風の吹く中、校庭を歩きながら、かたわらで冬を耐え忍んでいる植物に気づき、動物ランドの動物の様子をじっと見つめていました。ブランコに乗って冬の風を体で感じ取る子もいました。そうして見つけた題材を、今度は五・七・五（五・七・五・七・七）に置き換えます。子供たちは、自分の思ったことばを工夫して、短い語数の中におさめていました。

この作品応募は、2月の末日までです。応募用紙は、市民ホームに置いてあります。今は冬ですが、題材は冬に限りません。春夏秋、様々な季節の西部学区の風景を思い浮かべていただき、多くの作品の応募をお待ちしています。提出された作品は、三月の審査を経て、優秀作品を決めます。来年四月の総会では、作品の披露、表彰も予定しています。みなさん、どうぞふるってご応募ください。